

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏名	K.H	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学年	4 年	派遣国	フィンランド
派遣大学	オウル大学		
期間	2021 年 8 月 26 日～ 2022 年 6 月 26 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	◎
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	○
滞在費	約 (5 万) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩/自転車/バス) で、約 (35/15/15) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	60,000 円	食料雑貨: 45%, 外食: 45%, 嗜好品: 10%
学用品購入費	1,000 円	ニュース購読
交通費	7,000 円	バス: 80%, E スクーター: 20%
交際費	20,000 円	パーティー・イベント
その他	40,000 円	旅行・趣味: 95%, 日用雑貨: 5%
合計	128,000 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

治安状況: 非常に安全

明るい時間帯はどこにいても安全。特に大学内は PC を含めて荷物を置き去りにしても盗難になったケースは聞かない。暗い時間帯も女性一人が外を出歩いても問題ないほど安全だが、ごくまれに勢いのある若者や泥酔者に絡まれることがある。

危険地域: VALKEA (ショッピングモール) 周辺→麻薬の取引が頻繁に行われている。

3. 医療について

(1) 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(10) ヶ月間	保険料	(114,380) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称			
加入期間	() ヶ月間	保険料	() 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (オウル市)

オウルは「フィンランドの北の首都 (Capital of northern Finland)」として知られる。北極圏からはほんの 200km しか離れていないため、夏は 5 月中旬～7 月で夜でも常に明るく、冬は 12 月になると太陽が地平線にちらっと現れる程度になる。また空が晴れていれば、9～3 月はオーロラを観測することができる。天気は 9 月の時点で東京の冬程度に寒く、10 月中旬までは基本的に曇りか雨。10 月中旬から雪が積もりだし、12～1 月で最も寒くなる (マイナス 30 度近く)。2 月からは晴れの日が増え、4 月で雪が溶け始め、5 月には道路の雪はすべて溶けるほどまで暖かくなる。夏は基本的に晴れで 30 度近くまで気温が上昇する日もある一方、最低気温が 10 度以下になることも珍しくない。

人口は 20 万人ほどで、国内では首都のヘルシンキ、エスポー (ヘルシンキに隣接)、タンペレ、ヴァンター (ヘルシンキに隣接) について多い。特筆する点は平均年齢が 39 歳と非常に若い点で、大学の存在がこれに大きく貢献しているものと思われる。産業では木材加工とそれに伴う紙製品の生産が有名で、街の至るところから工場の煙を目の当たりにすることができる。IT 開発の中心地としても有名で、街全体が実験の場所として活用されている。

【学業編】

1. 大学情報

大学	オウル大学	所在地	Pentti Kaitean-ku 1, 90570, Oulu
最寄空港	オウル空港	空港からの距離	約 30km (直線約 15km)
空港⇄大学	(バスにて 40 分程度) *移動手段		
学生数	13,800	留学生数	461
学部	Faculty of Biochemistry and Molecular Medicine, Faculty of Humanities Faculty of Science, Faculty of Technology, Faculty of Medicine, Faculty of Information Technology and Electrical Engineering, Faculty of Education, Oulu Business School (8) *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	オウルビジネススクール/International Business (Entrepreneurship) *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (8)月～(12)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	ニュース閲覧 バイト（リモートワーク）	講義	睡眠	課題	睡眠
午後	講義 課題 Netflix	講義 課題 パーティー	ペアワーク 課題 買い物 サウナ	課題 パーティー	講義 課題

② (1)月～(5)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	ニュース閲覧 論文読込	講義① 講義②	睡眠 講義	論文読込 課題	睡眠
午後	講義 課題 友人と夕食	授業のグループワーク パーティー	課題 買い物 Netflix	講義 課題 パーティー	課題

3. 履修内容

科目（和訳）	Entrepreneurship for Sustainability (サステイナブル・アントレプレナーシップ)		
履修期間	11～12 月	単位数	5
授業内容／形態	グループワーク含む講義（ハイブリッド） 授業内でのグループワークを通じて、講義最終日に SDGs などの環境思考を取り入れたサステイナブル・ビジネスプランのピッチを行う。		
YCU 振替予定	科目	特講（国際商学部留学科目）	
	単位数	2	
	担当教員	-	

科目（和訳）	Entrepreneurial Leadership (起業家リーダーシップ)		
履修期間	9～12 月	単位数	6
授業内容／形態	配布されている資料を用いて自主学習。教室に行くと講師はいるが、基本的には質疑応答セッション。 起業に関する基本的な知識の講義と、ビジネス構築の練習、また実際のスタートアップ企業の CEO のリーダーシップについて。		
YCU 振替予定	科目	特講（国際商学部留学科目）	
	単位数	2	
	担当教員	-	

科目（和訳）	Internationalization (インターナショナル化)		
履修期間	9～11 月	単位数	5
授業内容／形態	LIVE でのオンライン授業と、その録画(オンデマンド)。一部のセッションでは完全オンデマンド配信。講義終盤では質疑応答の個別セッション。多国籍企業（Multi-National Enterprises）と企業の海外進出に関する講義。		
YCU 振替予定	科目	Global Business Administration	
	単位数	2	
	担当教員	小沢 和彦	

科目（和訳）	Tandem [Japanese – Finnish] (“タンデム” [日本語 - フィンランド語])		
履修期間	9～12 月	単位数	2

授業内容／形態	ペアワーク、1on1、実施内容はペアによって様々。 日本人とフィンランド人がペアとなって活動する。両国間の文化、言語の 交流を行い、最終レポートにそれぞれが学んだことを記載して評価され る。		
YCU 振替予定	科目	-	
	単位数		
	担当教員		

科目（和訳）	Strategic Marketing Management（マーケティング戦略）		
履修期間	11～12 月	単位数	5
授業内容／形態	講義（ハイブリッド）＋ウィークリー課題 複数のグループワーク課題を通して対象企業の海外マーケティング戦略 について学ぶ（ケーススタディー）。		
YCU 振替予定	科目	Global Management / マーケティング論	
	単位数	2	
	担当教員	Ahmed Zahir, 大澤 正俊 / 柴田 典子	

科目（和訳）	Perspectives on Innovation Management（イノベーション・マネジメント）		
履修期間	1～2 月	単位数	6
授業内容／形態	講義（オンライン）・グループワーク＋論文読込＋動画マテリアル イノベーションの成り立ち・形態と、関連して特許（IPR）について学ぶ。		
YCU 振替予定	科目	イノベーション・マネジメント	
	単位数	2	
	担当教員	岩佐 朋子	

科目（和訳）	Venture Growth Strategy（ベンチャー成長戦略論）		
履修期間	3～4 月	単位数	6
授業内容／形態	On-site もしくは Online でのハイブリッド授業。 シリコンバレーおよびヨーロッパにおけるスタートアップの現状。また ベンチャーファイナンス＝資金調達についても学ぶ。		

YCU 振替予定	科目	ベンチャービジネス論
	単位数	2
	担当教員	渡邊 万里子

科目（和訳）	Business Impact Project (ビジネスインパクト・プロジェクト)		
履修期間	1～4 月	単位数	6
授業内容／形態	講義（ハイブリッド）+グループワーク グループワークを通じ、対象企業の新しいサステイナブル・ビジネスを考案→プレゼンテーションする。有志学生は対象企業のオフィスに赴き、担当者と直接意見交換が可能。		
YCU 振替予定	科目	特講（国際商学部留学科目）	
	単位数	2	
	担当教員	-	

科目（和訳）	Portfolio Theory (ポートフォリオ論)		
履修期間	1～2 月	単位数	5
授業内容／形態	動画配信→ウィークリー課題を提出する。最終テストあり。 効率的でハイリターンな投資を行うにはどのようにポートフォリオを最適化するかを学ぶ。すでに確率されている数式を Excel に当てはめ、実際の過去のデータを用いて最適配分を行った。		
YCU 振替予定	科目	証券市場論	
	単位数	2	
	担当教員	河瀬 宏則	

科目（和訳）	Exercising Entrepreneurship (起業家訓練)		
履修期間	3～5 月	単位数	5
授業内容／形態	授業レジュメ & 最終プロジェクト。 全 6 回のレコーディング講義を視聴して起業家マインドの基礎を学んだ後にレジュメを作成する。最終課題でスタートアップのケーススタディー、もしくは自ら作ったビジネスプランをプレゼンテーションする。		
YCU 振替予定	科目	特講（国際商学部留学科目）	
	単位数	2	
	担当教員	-	

【総括】

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

留学生生活を通じて、勉強面に大きな変化があったように感じる。渡航前は私生活（バイトやインターンシップ、その他趣味など）で多忙を極めており、勉強面で自分の好きなことを突き詰める時間が取れていなかった。成績が悪いと思ったことはなかったが、「高い成績を取るため」という学んだことの定着意識が少ない勉強・課題作成が、近い将来に知識を有効活用するという目的の上では効果的だとは思っていなかった。一方、留学中はとても集中し、なおかつ効果的に勉学に励むことができたと感じる。特にレクチャーの中で教わったことを元にし、時間外に追加で関連事項をリサーチする時間が確保できたことは大きな変化だった。これによって普段よりも知的好奇心が刺激され、知識の定着度の向上、関連知識の定着に大きな影響をもたらした。この変化は、自然豊かな町並み、国際性豊かな友人たち、優れたデジタル教育システムなどの外的環境はもちろん、渡航前から貯蓄してきた資金と、月に 15 万円支給される奨学金の経済的余裕によって支えられた。結果として短期間で集中して勉強することができたため、余りの時間をパーティー、趣味、旅行などに利用することができた。全体として生活の質（ウェルビーイング）が向上したと実感している。

肝心の言語については、まだ測定していないので断言はできないが、劇的に変化したと言うことはできない。聞く・話す分野については、頭の中で考えていることをより正確に伝えることができるようになった程度だと感じている。読む・書く分野も同様、使えるようになった専門用語や論文における言い回しが増えたことで、アカデミックの分野では多少の向上が見られた。変化が限定的だったのは、渡航前より日常的に英語に接していたことで、そもそも主観的には変化を感じにくくなっていると考えられ、それは聞く・話す分野で顕著に現れた。IELTS や TOEFL などの客観的測定指標で測るほかならないため、早く受験しなければと思っている。この一方、文化に対する視点は大きく変わったと感じる。元々海外にルーツを持っていたため、その感覚は身についているものだと思っていた。しかし、初めてヨーロッパに長期滞在してみてアメリカとの価値観の違いを肌で感じることもできた。改めて、多様な考え方の上で成り立っている世界というものを痛感した。

全体として、渡航前の想像を超越した派遣になった。計画をしないほうが楽しいと思い（そしてそれを多忙だった渡航前の生活における口実にし）、あまり事前の下調べをせずに渡航した。これは大正解で、問題が起こったとしてもその場で対処できる対応力＝生きていく力が身についた、充実した 10 ヶ月となった。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

本文脈で語られることとして最も重要なのが、発達したヨーロッパ全体の教育システムである。EU を始めとしたヨーロッパ包括のネットワークは間違いなく教育面にも好影響だと思う。また、将来はこれを利用してヨーロッパで更に発展した教育を受けたい。具体的に学ぶことはまだ決定していないが、選択肢として、ある国で修士プログラムを受講中に半年ほどエラスムスで別の EU 圏に留学し、「副専攻」という形で別の分野を学ぶこともありだと思っている。

また、派遣先の周りの学生は帰国後すぐにインターンシップに真剣に取り組んでいた。彼らいわく、就職するには実務の経験が必須になるとのこと。最終的な就職先の国にこだわりがないこそ、欧米諸国でも対応ができるようにしたいと思っている。また今の自分に足りないことは、外国語を利用した実務経験である。よって今後数年は、複数のインターンシップに取り組み、これまで学んできた専門知識を生かしていくことはもちろん、その中でなにか一つの分野を実務を通して極めることで唯一無二の存在に成長したい。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

まずは、語学力がすべてを握っていると感じる。留学は**新しい知識を理解する**ために行われるものであることがほとんどのはずだが、理解するということは自分で具現化できることである。具現化とは学問の文脈では「説明できること」と解釈されることを考えると、例えば渡航前より専門領域の基礎となる理論を外国語で説明できる能力は、ディスカッションを行って**新しい知識を理解する**上で最低限必要になる。当然そのレベルであれば、日常生活はスラスラと止まることなくコミュニケーションできる程度となる。

また、母国についての知識が深いことはメリットにほかならない。特に私が渡航したヨーロッパでは日本という存在は遠く、勉強でも私生活でもいろんなことを聞かれる。勉強面では経営学的に「日本の企業は～」と説明できるが、私生活では全く説明することができなかった。漫画やアニメ、邦楽には全くの無頓着だったからである。日本人としてのアイデンティティをより誇張し、広く友人関係を持ちたいのであれば、歴史や文化の分野に強くなっていくと良い。

最後に、同じような理由で、なにか日本っぽいものをお土産として一つ持っていくといい。現地で日本のものが恋しくなるのを恐れ、味噌汁やお菓子などを持参する留学生もいるようだが、視点は「現地では入手が困難」かつ「若い現地人が楽しめるか」である。現地の流行りを事前に調べ、それっぽいものを持っていくとかなり喜ばれる。例えばフィンランドの大学生はオーバーオールにパッチを貼る文化があるため、富士山が描かれたパッチは喜ばれただろう。また、日本の嗜好品はどこよりも安い。お酒が好きなら、好きな日本酒の銘柄を 2 瓶は持っていくべきである。